

平成28年度
自己評価報告書

平成29年9月

社会福祉法人尾道さつき会
尾道福祉専門学校

目 次

1. 学校の現況	P1
2. 評価の基本方針	P2
3. 本年度に定めた重点目標	P2
4. 評価項目の達成及び取組状況	
(1) 教育理念・目標	P4
(2) 学校運営	P6
(3) 教育活動	P7
(4) 学修成果	P9
(5) 学生支援	P10
(6) 教育環境	P11
(7) 学生の受入れ募集	P12
(8) 財務	P13
(9) 法令等の遵守	P14
(10) 社会貢献・地域貢献	P15

1. 学校の現況

(1) 学校名

社会福祉法人尾道さつき会 尾道福祉専門学校

(2) 所在地

尾道市久保町1760-1

(3) 沿革

本校は2010年4月1日、社会福祉法人尾道さつき会 尾道福祉専門学校として新たに出発した。

本校の前身は、尾道市民が生涯にわたって幸せに暮らせる社会づくりの一環として、保健・医療・福祉の一貫したサービス体制の確立を目指す拠点の一つとして整備された「尾道ふくしむら」に誘致された、広島YMCA学園 尾道YMCA福祉専門学校である（1997年4月1日開校）。

しかし少子化や大学全入時代の到来、そして福祉介護分野の労働条件の厳しさばかりがクローズアップされ、2006～2009年の3年間で、入学希望者が激減した。広島YMCA学園も、本校の今後の確かな継続のために、誘致した尾道市と、これまで実習などを通し関わりの深かった尾道さつき会との協議の結果、質の高い介護従事者養成の必要性と、それもまた社会福祉法人の社会的責任と考える尾道さつき会が、介護福祉士科の単科の養成施設として、その運営を引き継ぐこととなった。2017年、入学希望者の減少が続き、定員の変更（60名から40名）とより修学しやすい魅力ある学校をめざしカリキュラムへの変更を行う。

本校のように、地域の自治体と社会福祉法人と共に、地域により密着した新しい介護福祉士養成施設としてのあり方を目指そうという取り組みは、今後の方向の一つだと考えている。

(4) 学科の構成

介護福祉士科2年課程

(5) 学生数及び教職員数

平成28年度学生数(7月現在) 学生数 1年生23名、2年生25名

平成29年度学生数(7月現在) 学生数 1年生16名、2年生17名

教職員数 校長1名、事務員1名

専任教員3名 (非常勤講師7名)

(6) 施設の概要

本校が位置する尾道ふくしむらには、児童から高齢者までを対象とする6法人8つの施設がある。また「尾道の福祉を担う」を合言葉にしている設置法人は、学校の敷地内を含め尾道市内を中心に30か所の施設・事業所を展開しており、現場の最先端に触れながら学ぶという点では最高の環境が整えられている。

特に尾道ふくしむら内の施設とは、実習のみならず授業でも、施設見学や現場からの特別講師

の派遣により、貴重な学習となっている。

本法人は尾道市との強いきずなを持っており、尾道市との災害協定を行い、また、尾道市総合事業研修の開催を行う。これらの取り組みが本校の理解度や教育力を高めるものと考えている。学生は広島県東部を中心に介護現場にそのほとんどが就職しており、「せとうち福祉エリア」での地域の福祉に貢献している。

2. 平成 28 年（2016）評価の基本方針

高校生及び社会人に選ばれる介護福祉士養成校を目指し、教育内容を見直すほか、本校の特色を積極的にアピールするため広報戦略を強化する。

また、介護福祉士実務者研修等の資格取得支援の研修を開催し、広島県東部における介護職員養成の中心的な役割を果たす。

3. 重点目標

（1）魅力ある学校づくり

- ・授業やボランティア活動、介護実習等で法人内事業所と連携を図り、現場に即した学生を協働して育てる体制を作る。
- ・介護福祉士の国家資格取得の他に、学生にとって魅力的な授業を提供するため多様な選択講座等について研究する。

（2）入学生の確保による経営の安定化

- ・学校の特色や介護の魅力をわかりやすく伝えるため、パンフレットの内容を大幅に見直す。
- ・入学生確保の入口となる体験入学の開催数を増やし、多彩な企画や丁寧な開催案内で、参加者数延べ 120 名を目標にする。
- ・平成 29 年度入学者数の目標を 50 名（委託訓練 10 名含む）とする。

（3）その他（新規事業等）

- ・介護福祉士実務者研修、介護職員初任者研修、痰の吸引研修を実施する。
- ・介護福祉士実務者研修の一般教育訓練講座の指定申請を行う。
- ・尾道市における介護人材確保の支援協議会設立に協力する。

（4）取組状況・成果

高校生及び社会人から選ばれる介護福祉士養成校を目指し、専門学校経営改善委員会を設置して教育内容を見直したほか、学生に対する新たな支援制度を設けるなど、本校の魅力と特色を積極的にアピールする内容にした。

また、経営改善に向けて学生定員を削減し教職員体制を見直すとともに、法人事務局との連携を強化し、法人・事業所等との一体的経営が可能な体制作りを進めた。

4. 重点事業の実施状況について

(1) 魅力ある学校づくり

・授業やボランティア活動、介護実習等で法人内事業所との連携は十分に図れなかったが、来年度は事業所職員が介護実技の授業において教員補助を担うなど、介護現場の声が届く体制を作ることができた。

・福祉レクリエーションの授業数を削減し選択科目とし、学生の意欲と能力に応じたカリキュラム数に改め、長期休暇の確保とアルバイト等ができ充実した学生生活が可能な時間割とした。

(2) 入学生の確保による経営の安定化

・平成 28 年度の体験入学者数は目標の 120 名に対し 44 名（保護者 26 名の参加数除く）、入学者数は目標の 50 名に対し 15 名（委託訓練 3 名）と、大幅に下回り経営の安定化に繋げることができなかった。

・新年度向けの学校案内パンフレットを大幅に見直し、学校の特色や学生のメリットを前面に打ち出した内容にしたほか、本校の特色をわかりやすく説明したチラシを作成し、北部圏域を含め高校訪問を計画的に行った。

(3) その他（研修等）

・介護福祉士実務者研修 40 名、喀痰吸引研修 38 名で実施した。

・介護福祉士実務者研修は、平成 29 年度から一般教育訓練指定講座となった。

・尾道市の介護人材支援協議会に協力したほか、平成 29 年度から尾道市が実施する総合事業の従事者養成研修を受託した。

5. 課題

近年、介護に対するマイナスイメージが定着しているほか、景気の回復により、社会福祉分野に進もうとする学生が減ってきていることから、この先、学生の確保には過去の延長線上での対応ではなく、様々な工夫とあらゆる機会を利用して「介護」に対するプラスイメージを発信しなければならない。

支援制度の充実やこれまでの学生募集のやり方（特に学校訪問、体験入学プログラム）を再度見直すとともに、地域に見える学校のあり方を模索する。法人を挙げて学校経営が安定するための策を講じ、ひいては地域の介護人材確保に寄与する。

4. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不適切…2、不適切…1
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4 ③ 2 1
・学校における職業教育の特色はあるか	4 ③ 2 1
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4 ③ 2 1
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に 周知されているか	4 3 ② 1
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4 ③ 2 1

① 現状

社会福祉法人尾道さつき会の学校運営の理念は「地域に親しまれ、支えられるとともに、地域に貢献できる専門学校づくり」であり、学校側との協議の上、そのもとで、以下の目的が設定されている。

教育内容の充実

介護福祉に関する専門的な知識・技術を教授し介護福祉士の取得が可能な学生を育成します。

介護現場に即した人材の育成

福祉現場が直面している課題を反映した教育内容や、介護職員の声を生かした教育を実施します。

福祉動向の把握及び理解

関係機関との連携を深め、早期に施策の動向を収集することで、福祉の実情を反映した学習内容を編成し、高齢者及び障害者福祉の向上に寄与できる学生を育成します。

地域貢献

地域や事業所の行事あるいは活動に参加する特別活動を充実し、社会性や自主性を育むとともに、地域に貢献できる学生を育成します。

② 課題

人間は、どんなに重い障害を持って、高齢になっても一人の生活者として充実した生活を送りたいと願っている。同じ人間として、その思いを受けとめ、利用者の主体的で豊かな生活づくりのために何ができるのか、それを共に考え合い、共同作業で実現させていくことがこれからの介護福祉士の支援の基本となる。

地域包括ケアに貢献できる介護福祉士が求められているが、施設であれ在宅であれ、その基本は同じであろう。ただこれからは、居宅サービスや施設サービスをうまく組み合わせ使い、最後まで住み慣れた地域でその人らしく生きることを支える支援や、医療的ケアも含む重度の利用者を支える支援が求められている。これにきちんと対応できる介護福祉士教育はこれから始めるので、今の教育をさらに見直していくことが必要である

(2) 学校運営

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3 やや不適切… 2、不適切… 1			
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	③	2	1
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4	③	2	1
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	③	2	1
・人事、給与に関する規程等は整備されているか	4	③	2	1
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	③	2	1
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	③	2	1
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	③	2	1
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	③	2	1

① 現状

運営方針、事業計画については、毎年教職員間で協議を行ったうえで策定し、理事会に提出している。学校の運営については、教職員は校務分掌で役割を明確にして実施しており、協議事項は毎月2回開催している教職員会議等で十分協議したうえで、決定事項として情報の共有化も図っている。教育活動については当校のホームページ等により情報公開に努めている。

② 課題

法人全体の職制や給与のあり方についての見直しが行われ、学校についても独自に検討された。

③ 特記事項

求人状況が改善され、また一方で経済的には格差が広がり、今後、学生募集についてはかなり厳しい状況が見込まれる。しかし一方、介護人材の確保は国や自治体にとっても今後の大きな課題である。学校運営について、学校の努力はいうまでもないが、法人全体や関連分野、また自治体との連携が必要である。

(3) 教育活動

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3 やや不適切… 2、不適切… 1
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4 ③ 2 1
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④ 3 2 1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4 ③ 2 1
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4 ③ 2 1
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	④ 3 2 1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4 ③ 2 1
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④ 3 2 1
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④ 3 2 1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4 ③ 2 1
・関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4 ③ 2 1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 ③ 2 1

① 現状

1 回目の実習指導者連絡会を、入所施設（介護実習Ⅰ・Ⅱ）17施設21名の実習指導者の出席で開催した。2 回目の実習指導者連絡会を、通所事業者（介護実習Ⅰ－①）8施設9名の出席で開催した。実習施設との連携を図り、より地域や現場のニーズに基づいた実践的な職業教育の充実を目指している。今年度初の取り組みとして、1 年生で初めての実習の前に実習施設への1 日ボランティアを行った。実習指導者から実習オリエンテーションを受け、施設の雰囲気を知ることができ、学生、実習指導者共によかったという意見が多く聞かれた。

授業評価については、前期・後期の各期に1 回、年間2 回の学生授業評価アンケートを行いその結果により教員の授業の見直し等を行っている。

② 課題

実習指導者連絡会で、実習目標や実習計画内容、実習評価の項目について、実習指導者と教員とで具体的な検討をすることができた。次年度は、実習指導者と教員との連携で、実践的に活用していく。

1 日施設ボランティアとしてではなく、実習としての位置づけをして定着させる。

介護福祉士と福祉レクリエーションワーカーの資格取得の両立が難しい学生も増加しており、カリキュラムの見直しの検討が必要となっている。(2017年度の変更として福祉レクリエーションワーカーの基礎資格であるレクリエーションインストラクターの資格を選択科目としておく。)

③ 特記事項

新入生のオリエンテーションを始め、久保地区の資源ごみ回収等、地元尾道の魅力を活かし地域に根ざした介護福祉士養成を意識した取り組みを行う。

自然災害時等での支援の必要性や方法についての教育活動を取り入れることを検討する。

(4) 学修成果

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3 やや不適切… 2、不適切… 1
・就職率の向上が図られているか	④ 3 2 1
・資格取得率の向上が図られているか	④ 3 2 1
・退学率の低減が図られているか	4 3 ② 1
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4 ③ 2 1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4 ③ 2 1

① 現状

就職率は 100%である。地元の福祉施設に就職している。

平成 28 年度の退学者 14 名、休学者 2 名である。内訳は、1 年では、7 名の退学と 1 名の休学である。7 名のうち委託生は 2 名、留年からの退学は 2 名、施設奨学金制度利用の学生 1 名である。

2 年は、7 名の退学と 1 名の休学である。7 名のうち休学し復学の後の退学 1 名、休学から退学 5 名、このうち人間関係を理由とする学生は 4 名である。

② 課題

さらなる細やかな対応を行い、退学者、休学者の低減を図ることが課題である。

③ 特記事項

特になし

(5) 学生支援

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3 やや不適切… 2、不適切… 1
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
・学生相談に関する体制は整備されているか	④ 3 2 1
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④ 3 2 1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	4 ③ 2 1
・学生の生活環境への支援は行われているか	4 ③ 2 1
・保護者と適切に連携しているか	4 ③ 2 1
・卒業生への支援体制はあるか	4 ③ 2 1
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4 ③ 2 1
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4 3 ② 1

① 現状

学業面や学生生活全般での学生との面接や、保護者面接が増加している。

進路・就職に関する支援としては、2年次に進路指導の時間を設け、履歴書の書き方や模擬面接指導を行うほか、福祉の職場説明会を2回開催することで、就労意欲向上につながっている。

経済的な支援としては、県の修学資金や日本学生支援機構、また民間保険会社の奨学金に加え、本校独自の施設奨学金制度を設けている。この施設奨学金制度を利用して、平成28年度は1名の入学生があったが、学生個人の事情で退学となった。この時には就職施設、学生や保護者、学校でかなりの面接や話し合いを重ねることとなった。

平成26年度の施設奨学金制度創設以降、賛同法人は9法人と増加しているが、広報活動の中で説明したり、施設も高校訪問を行っているが、受験生や高校からの問い合わせは多くない。

県の修学資金や日本学生支援機構等の奨学金制度を活用する学生も多いが、学業不振や休学となるケースも出てきており、こちらの対応も多くなっている。

② 課題

委託訓練生をはじめとして、様々な課題を抱える学生が増加している。精神障害や発達障害など、教員の側も理解を深め、保護者と協力して、学生の生活全般を見守り、またその学生の状況に応じた対応がより一層求められる。関係機関との連携も深めていく必要がある。

施設奨学生については、就職施設、学生や保護者、学校が早期から情報交換し、協力体制をつくり支援していくことが必要である。本校の奨学金制度の見直しを行い修学環境を整えていく。

③ 特記事項

平成28年度は施設奨学金制度を利用し1名の入学生がある。

(6) 教育環境

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3 やや不適切… 2、不適切… 1			
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④	3	2	1
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	③	2	1
・防災に対する体制は整備されているか	④	3	2	1

① 現状

トイレ換気扇の経年劣化に対し、3カ所の修繕を行った。

2年前、全館冷暖房機器の入れ替えを行い、冷暖房が快適に使用できている。照明機器はLEDに交換、照明環境が確保された。使用しやすい施設として整備された。

② 課題

机、椅子、壁の状態に加え201教室の以前使用していたOA機器の床下配線の溝部分のへこみが2カ所みられる。生活支援技術演習時の介護用品等の老朽化による不具合が見えるところもあるので、学習環境を整えていく視点を教職員の間で共有し、改善に努める必要がある。

普段からのメンテナンスや学生にも物品使用時の意識の向上、整理・清掃等での協力を得る必要がある。

③ 特記事項

防災訓練は消防署員の立会いの下で、学生、教職員で実施している。

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3 やや不適切… 2、不適切… 1			
・学生募集活動は、適正に行われているか	4	③	2	1
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	③	2	1
・学納金は妥当なものとなっているか	4	③	2	1

① 現状

学校パンフレットは、学校カリキュラム・学生生活・サークル活動等、教員間で見直し、わかりやすく読みやすい内容に変更している。さらに本校独自の魅力ある情報・奨学制度等、詳細を掲載した内容についてもパンフレット及びホームページ等でも周知に努めている。また、教育成果としての就職率 100%であることもパンフレットで伝えている。

しかし学校パンフレットを活用し、校内ガイダンス等に積極的に出向き、学校の魅力を伝えていく取り組みを行っているが、オープンキャンパス等で来校する学生数が年々減ってきているのが現状である。

② 課題

これまで以上に、在校生・卒業生・現場職員の現状を盛り込んだ内容で、業界全体の状況も伝えながら募集活動が実施できるように計画していく。学生募集エリアの拡大、募集方法の検討を行う。

経済的困難、精神疾患をもつ学生の状況、家族の状況等複数の課題を抱える学生への対応の難しさがあり、学費の未納が生じている。

③ 特記事項

特になし

(8)財務

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不適切…2、不適切…1
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4 3 ② 1
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4 3 ② 1
・財務について会計監査が適正に行われているか	4 ③ 2 1
・財務情報公開の体制整備はできているか	4 ③ 2 1

① 現状

現役高校生の数も景気回復や介護職のイメージが向上しない等の理由で、全国的にも減少しつつあることから、現役高校生の入学者を獲得するための努力がさらに必要である。

学生数の減が見込まれ、赤字経営となるため、その対策が急務となっている。

② 課題

入学者を増やすための委員会を立ち上げ具体的な方策を考えるとともに、広報活動にさらなる力を入れる。外国人留学生の入学に向けての検討を行う。

法人・施設等との一体的経営の強化を実現し、赤字削減に向けた、経費の見直しが必要である。

③ 特記事項

特になし

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3 やや不適切… 2、不適切… 1			
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	③	2	1
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4	③	2	1
・自己評価結果を公開しているか	4	③	2	1

① 現状

専修学校設置基準等を遵守し、適正に運営するよう努めている。変更があった場合は適宜変更届を提出している。また、個人情報の保護については教員や学生からも誓約書を取り、遵守するよう努めている。

自己評価については、学生アンケートなどを実施しながら振り返りをして、改善を心がけてきたほか、この形式での自己評価からの課題について解決にむけて取り組みを始めている。

② 課題

自己評価結果をホームページで早急に公開する。

③ 特記事項

法令順守については、法人も強いコンプライアンスの意識を持っており、学校でも常に意識化するよう努めている。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3 やや不適切… 2、不適切… 1			
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	③	2	1
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	③	2	1
・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4	③	2	1

① 現状

学生のボランティア活動の支援としては、山手地区にある一人暮らし高齢者宅を訪問しての資源ごみ回収、尾道みなとまつりや久保地域丸ごとフェスティバルへの参加、認知症の方を支援するラン伴にも継続して参加している。

尾道市及び周辺地域の施設行事でのボランティア活動には、参加を奨励、講義でのボランティア活動をしている講師との関わりを通しての支援を行っている。

地域に対する研修としては、尾道市との災害協定、尾道市総合事業研修開催、介護職員実務者研修を実施している。

② 課題

学校の資源や施設の地域貢献について、地域のニーズを掘り起こしていく必要がある。

尾道市及び周辺地域での社会貢献活動や地域貢献活動の機会を通して、介護職のイメージアップを図り、学生募集につながるようにするため、積極的な地域行事への参加を継続して行く必要がある。

③ 特記事項

「介護の日」統一イベントである「介護の日フェスタ in 広島」にも学校として参加し、その開催を支えている。

介護労働安定センター広島支部からは、「ケア・サポート」講習の講師や、広島県福祉・介護人材確保等総合支援協議会から依頼された『介護基礎技術ハンドブック』作成に加わり、その後の研修講師も引き受けているし、広島県実習指導者講習会や、同講習会修了者へのフォローアップ研修にも関わっている。